

授業研究の充実に向けた学校組織のあり方について

～中核的な人材の育成をとおして～

三重県教育委員会事務局
研修企画・支援課
研修員 伊藤 暢浩

I 研究の目的

授業研究の充実に向けた学校組織のあり方について、中核的な人材の育成をキーワードにして考察し、研究成果を今後の自らの実践につなげる。

II 研究の内容

1 授業研究の充実に向けた学校組織の状態を捉えるチェックシートの作成

授業研究を充実させる学校組織のあり方の仮説としてチェックシートを作成した。チェックシートは昨年度の研究で作成した「校内研修参観シートの例」を基にして、「校内研修推進体制」と「授業研究の取組状況」の場面に分け、授業研究に取り組む学校組織の状態を確かめることができるようにした。チェックシートの作成過程は表 1 のとおりである。

「表 1 チェックシートの作成過程」

(ア) 要素の抽出	三重県型「学校経営品質」、中核的な人材の育成を目的とした研修、企画・支援班が作成した資料等から、チェックシートの作成に向けた要素を抽出した。
(イ) 要素の整理	抽出した要素を「校内研修参観シートの例」にそって「校内研修推進体制」と「授業研究の取組状況」の場面に分けて整理した。
(ウ) 項目の設定	要素の整理と三重県型「学校経営品質」におけるアセスメントの 7 つの視点を参考にして、項目と判断基準を設定しチェックシート案を作成した。
(エ) チェックシート案の検討	作成したチェックシート案は、項目、取組の姿、判断基準等について指導担当と検討を重ね、また、企画・支援班で提案し意見を得ることで見直しを図った。

2 重点推進校におけるチェックシートの妥当性を検証する調査

(1) 調査の目的

作成したチェックシートで授業研究の充実に向けた学校組織の状態が見えるか、その妥当性を検証し、チェックシートの改善につなげる。

(2) 調査の方法

- 授業研究担当者育成研修の重点推進校（以下、重点推進校）4 校において授業研究を参観し、授業研究に取り組む学校組織のようすや、授業研究担当者の働きかけを調査し、チェックシートの記入を行った。併せて研修主事にもチェックシートの記入を依頼した。
- 研修主事と筆者が記入したチェックシートを照らし合わせ、研修主事から意見を得ることで、チェックシートの修正点を見出した。

(3) 調査の結果

- チェックシートの項目、判断基準を見直し、最終案をまとめた。主な修正点は以下のとおりである。
 - ・ 授業を構想していく上で、子どもの学習状況を分析把握することが大切であることから、No. 18 として、「確かな児童生徒観」という項目を追加した。
 - ・ 授業を振り返る上で、子どもたちが自分の考えを整理し、書くことを重視して振り返ることが大切であると考え、No. 23（修正前は No. 22）の判断基準の表記を「書くことを重視した『振り返る活動』を設定している」と統一した。

3 授業研究の充実に向けた学校組織のあり方についての考察

(1) 重点推進校4校における共通した組織的な取組

重点推進校4校では、授業研究の充実に向け授業研究担当者を中心とし、以下のような組織的な取組が行われていた。

- 事後検討会の実施方法を工夫し、授業研究担当者がファシリテーターを務め、教職員の発言を促し対話による気づきを導き出していた。
- 事後検討会の役割を分担し、協働的に運営していた。
- 外部講師を招聘し、指導助言と客観的な評価を受け、学校に応じた授業研究を確立していた。
- 校長と授業研究担当者が授業研究に関して共通理解を図り、リーダーシップを発揮していた。

(2) 授業研究の充実に向けた学校組織のあり方のポイント

重点推進校4校における調査と作成したチェックシートから、授業研究の充実に向けた学校組織のあり方として、6つのポイントが大切であると考えた。

- ア 校長のリーダーシップ**
校長がリーダーシップを発揮し、ビジョンや方向性を示し、人材を育成していくことが大切である。
- イ 授業研究担当者の働きかけ**
授業研究担当者は授業研究の活性化に向けて、管理職と教職員の意思疎通を図り、教職員の授業改善への取組状況を把握し助言を行うことが大切である。また、教職員の対話を導き、新たな気づきを促していくことが大切である。
- ウ 研修推進組織の確立**
学校規模に応じた研修推進組織が確立され、研修推進組織の編成メンバーの役割を明確にしていることが大切である。
- エ 研究テーマの設定と共有**
客観的なデータの分析により課題を共有し、全教職員が納得でき、わかりやすく、実現可能なテーマを設定することが大切である。
- オ 計画的な授業研究**
研究授業を年間計画の中にバランスよく位置づけ、授業研究の検証改善を行うことが大切である。また、公開授業研究会を計画し、外部からの評価や意見を受けることも大切である。
- カ 研究の検証**
学校評価に校内研修に関する評価項目を設定し、その結果を分析することで、学校組織として授業研究の検証を行っていくことが大切である。

III 成果と課題

1 成果

- (1) チェックシート案を作成し、重点推進校4校において妥当性を検証する調査を行った。その調査結果からチェックシートの再構成を行い、最終案をまとめることができた。
- (2) 重点推進校において、中核的な人材を中心とした組織的な取組から学び、授業研究の充実に向けた学校組織のあり方として、6つのポイントを整理することができた。

2 課題

- (1) 所属校において、授業研究の充実に向けた実践に取り組む際に、チェックシート等を提案し、同僚とともに授業研究を充実させる学校組織のあり方についてさらに検討していく。
- (2) 所属校において、本研究で学んだことを生かし、実践をとおして学び続け、中核的な人材としての資質を身につけていく必要がある。

IV おわりに

これまで筆者は校内研修において、自らの授業についてのみ研究していればよいと考えていた。また、研究授業を一過性のものとして捉え、連続発展させていこうと考えていなかった。しかし、1年目の研究で対話を重視した授業研究のあり方を学び、同僚とお互いに学び合い、授業研究を継続発展させていくことの大切さを学んだ。また、2年目の研究では、授業研究の充実に向けた学校組織のあり方について考え、学校組織として授業研究に取り組むことの大切さと中核的な人材の役割について学んだ。この2年間の研究は、自らの授業研究や学校組織についての認識を改める機会となった。そして、自らが学校組織の一員として、中核的な人材としての資質を身につけていく必要があると改めて認識することができた。今後、所属校において2年間で学んだことを生かし、授業研究の充実に向けた実践に取り組み、自らの授業力を高めるとともに、教員一人ひとりの授業力のさらなる向上と、子どもの学力向上につなげていくことができるよう、研究の成果を還元していきたい。